

登録コード	A4B07200	開講年度	2026			
授業科目	動物解剖生理学				担当教員	米倉 真一 他
英文授業名	Animal Anatomy and Physiology					
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限	対象学生
講義室	農学部15番講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	2025Aカリ					
	【2025年度以降カリキュラム対象】2. 【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。				⇔	生命現象の基礎および生体の機能を包括的に理解し、動物生産に関連する基本的な生体内機構を生理学、解剖学の観点で理解できるようになる。
	【2025年度以降カリキュラム対象】3. 【情報分析・発信力】 論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。				⇔	生体機能に関する課題に対して、科学的根拠に基づいた考察を行い、自らの見解を構築し、分析結果や考察内容を、専門用語を適切に用いながら効果的に伝達できる。
(2)授業で学べる「テーマ」	健康長寿					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	本授業では、動物の生理機能と身体構造を統合的に学び、生命維持機構の理解を深める。前半では内分泌系，神経系，細胞内情報伝達および家畜生産に関わる生理学を扱い，後半では骨格系，消化器系，泌尿・生殖・呼吸循環器系、乳腺の解剖学を学修する。構造と機能の関連性を理解し，生体現象を論理的に考察し説明できる基礎的能力の修得を目指す。					
(5)授業計画	第1回 生理学の概念、血液と循環 第2回 内分泌（1）下垂体ホルモン、副腎ホルモン 第3回 内分泌（2）膵および消化管ホルモン 第4回 細胞内情報伝達機構 第5回 神経系の機能 自律神経、運動神経、中枢神経 第6回 家畜生産の生理学（1） 反芻動物のエネルギー代謝、霜降り肉形成 第7回 家畜生産の生理学（2） 泌乳生理学、ホメオレシス 第8回 中間テスト 第9回 家畜の骨格（1）：中軸骨格（頭蓋・脊椎） 第10回 家畜の骨格（2）：付属骨格（前肢・後肢）と家禽の骨格 第11回 消化器系（1）：口腔・食道・胃 第12回 消化器系（2）：腸管および消化腺（肝臓・膵臓・胆嚢） 第13回 呼吸器系 第14回 循環器系および泌尿器系 第15回 生殖器および乳腺 第16回 期末テスト 第9回から16回は集中講義になります。8月6日、7日に実施する予定です。					
(6)自主学習の指針	授業計画を参考にして参考書で予習・復習することを薦めます。また、講義で配付される資料も復習に役立ててください。。ノート、教科書を参考にして、自主学習の一つとしてください。					
(7)成績評価の基準	秀：授業の達成目標水準から見て卓越している。（90点以上） 優：授業の達成目標水準よりかなり上にある。（80～89点） 良：授業の達成目標水準よりやや上にある。（70～79点） 可：授業の達成目標水準にある。（60～69点） 不可： 授業の達成目標水準にない。（59点以下）					
(8)事前事後学習の内容	事前に教科書を読み、その都度配布する参考資料を事後学習に役立ててください。					
(9)テストやレポートの予定	○小テストもしくは課題レポートは各章ごとに実施します。 ○中間試験（生理学の内容）、期末試験（解剖学の内容）は小テスト出題以外の項目について出題します。					
(10)成績評価の方法	小テスト・課題レポート点（20点）および中間試験（40点）、期末試験（40点）の合計得点（100点満点）で評価する。 ○20分以上の遅刻は出席としてカウントしない。					
(11)質問、相談への対応および連絡先	授業時間内は口頭で、それ以外の時間はメール等で対応します。 動物生理学研究室（C棟310号） Tel:0265-77-1443 e-mail:yonekura@shinshu-u.ac.jp					
(12)履修上の注意	この授業は，すべての回に出席することを前提とします。ただし，「信州大学における授業の出席に関する要項」第4が規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席した場合を含み，欠席回数が3回以上になると，授業の達成目標に到達することができないため単位が認定されません。					
【教科書】	毎回、資料を配布する					

【参考書】	新編 家畜生理学（加藤和雄 著、養賢堂）
-------	----------------------